

SORA

web magazine 2017.dec. vol.91

Travel

マクロばかりじゃない！ ワイドの景色も目白押しのモアルボアル

MAP
CLICK!

フィリピンをはじめとするアジアの海は、可愛い小さな魚がたくさんいる。それを見るのはもちろん楽しいけど、もう少しのんびりワイドの景色寄りなダイビングを楽しみたい。そんなダイバーへのお勧めはモアルボアル。豊かなサンゴ礁や驚愕ミズンの群れ、パスカドール島のハナダイの群れなど、スーパーなワイドの景色がモアルボアルの海には連続している。

PHILIPPINES MOALBOAL

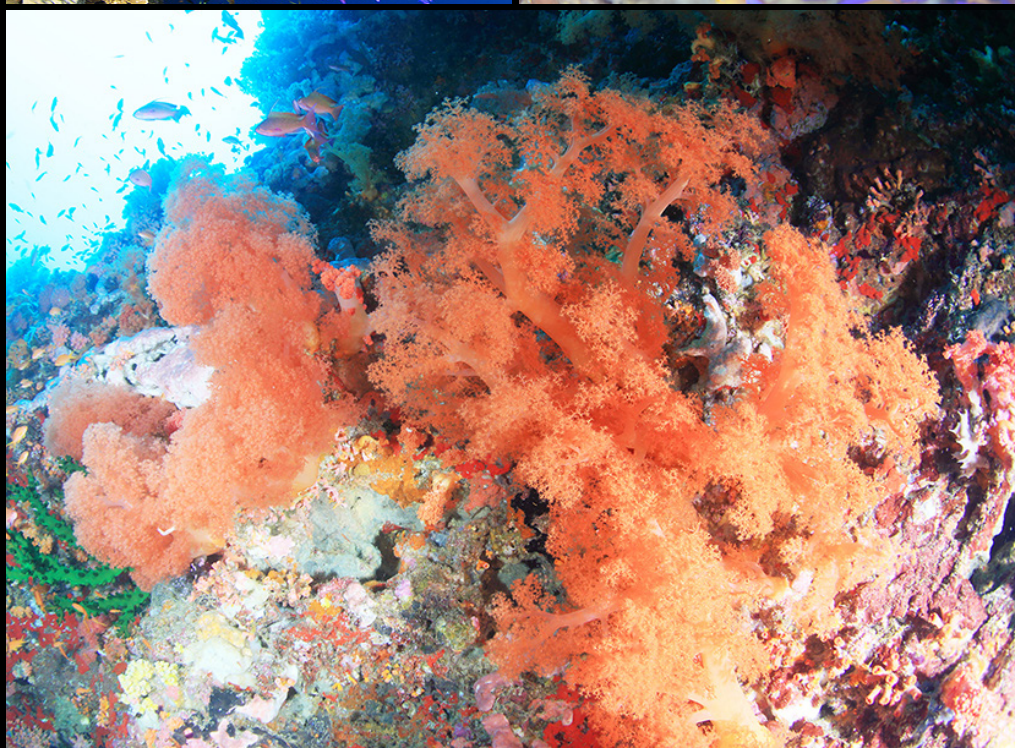
PHOTO & TEXT :
YASUAKI KAGI

現役チキチキダイバーズガイドがお気に入りのポイントを紹介!

チキチキの太陽・讃井梨沙編

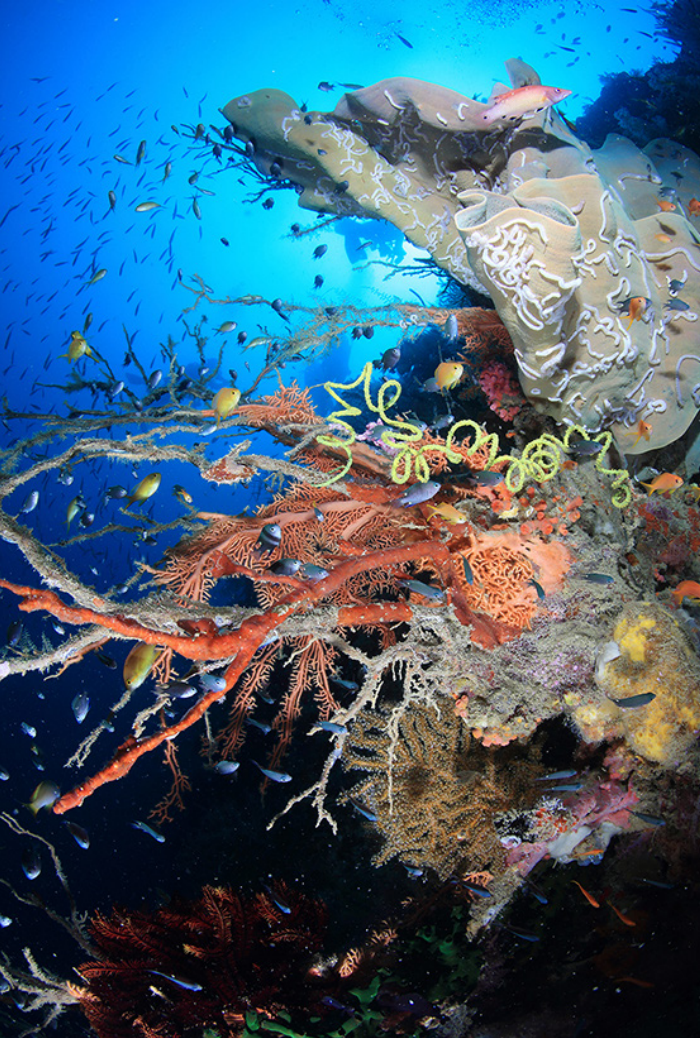
<ペスカドール島>

モアルボアルの沖合、ボートで約15分先にペスカドール島がある。「ひたすらハナダイに囲まれるところですね。サウスからケーブに行く間、ソフトコーラルの上に舞うハナダイのトンネルを潜っていくのが大好きです。そして、北側のサンゴは繊細に思え、浅瀬のリーフに光が入る時には、キラキラしているんですよ」と梨沙さんは教えてくれた。確かにペスカドール島にはハナダイが多い。少し深場では、フチドリハナダイ、スジハナダイ。そして壁際にキンギョハナダイ、リーフトップにメラネシアンアンティースとパープルビューティーがサンドのような状態になっている。島1周がポイントになっているが、時期や潮の当たり方によって、潜り方が幾つかある。一つは西から北へのコース。カテドラルケーブから始まり、フチドリハナダイ、ミナミハタなどを見て、浅場のサンゴで遊ぶ。二つめは南から西へ行くコース。エントリーして海底一面のサンゴを横切り、メラネシアンアンティースやパープルビューティー、デバスズメダイが群れるリーフエッジへ。流れがあることが多いので、1方向に泳いでいる姿が美しい。ドロップを降りると、カラフルなソフトコーラルの群生、そのソフトコーラルにキンギョハナダイが群れる。水深21mほどに行くと、スジハナダイがいて、20匹ほどでまとまっている。中層を行くと、少し大きめのギンガメアジ、20匹ぐらいがミニトルネードしている。マクロの生き物も、バーバリー柄のフィリピンプレニーやバスズプレニーが見られる。12月から3月くらいまでは、島周辺でイルカに会える可能性が高い。



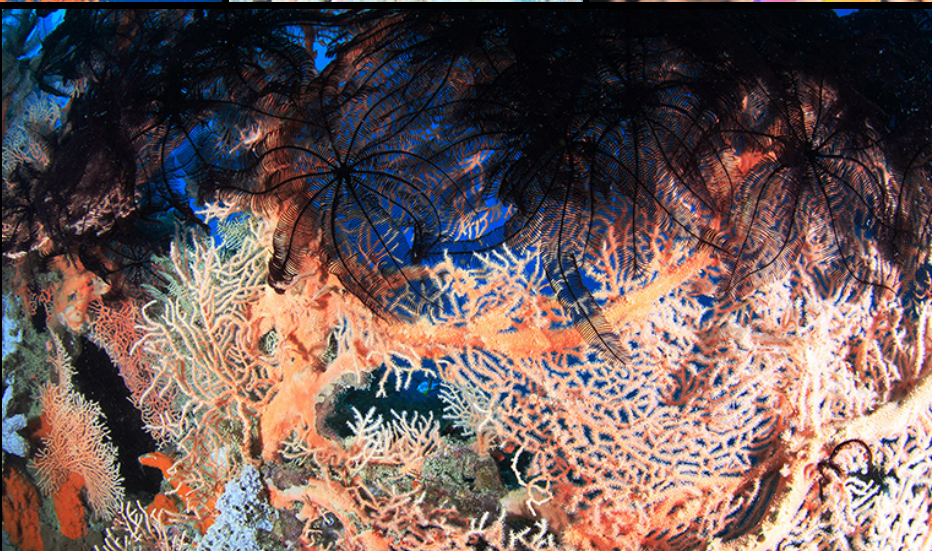
PHILIPPINES MOALBOAL

フィリピン・モアルボアル



ペイントアートに才能あり・ユヌス編 ＜ロンダベイ 北に20分＞

「どこのポイントが好きな?」と聞くと、一つ一つのポイントの名前を挙げ、結局全部なの?と突っ込みを入れられ、最後にボソッと言ったのが、「ロンダベイが好き」。なるほど、地元ガイドはあそこを選ぶのか……と妙に納得する。ロンダベイは、ショップから北に向かったポイントで、ボートで約20分のポイント。チキチキダイバーズが潜りに行くポイントでは、最も遠いポイントの一つ。風や海況に影響されやすく、海が穏やかな時にしか行けない。ユヌスは、「サンゴもあるし、砂地もある、ウミウチワもある。」と見た目、分かりやすい特徴を羅列する(笑)。ドロップオフの壁沿いには、ウミウチワが連立し、そこにソフトコーラルやウミシダが彩りを添える。人気のクダゴンベの姿もちらほら。モアルボアルの他のエリアではなかなか見ない景色が素敵。深度を少し上げて水深約20mの砂地へ。ヒレナガネズリンボウ、ボウリングアイジョーフィッシュ、ヤノダテハゼ、ブラックベリーゴビー、チンアナゴ、ニシキアナゴ、背中ハート模様があるトウアカクマノミが見られる。そして最後、ブイ下のサンゴ礁も息をのむほど美しい。少しの遠征も納得のポイントだ!





おもしろニューフェイス・木村風香編 〈トンゴサンクチュアリ〉

ショップからポートで南に8分ほどのポイントです。大きなものと小さなものを楽しめるポイントで、マクロ過ぎないのが好きです。マクロの生き物が苦手な方でも、程よくマクロの生き物を楽しむことができます。エリアに3つのパイがあり、センターのパイから南のパイに泳いでいく。また、流れによっては、南のパイからセンターのパイに行くのが好きです。エントリー後すぐに、クマドリカエルアンコウやオオモンカエルウオ、ダイバーに人気の「トンゴのアイドル」マンジュウイシモチの幼魚が観察されます。ここは本当にかわいいサイズが多いですし、他にアイドル種のカクレクマノミもいます。ドロップオフでは、ニチリンダテハゼ、ヤマブキハゼがみられます。少し深度をあげると、アカモンガラの群れがいます。(誰も気にしませんが、私は形が好きなのです……。) 外洋側も盛り上がってます。やたら色々とお魚の種類が多く、特にホシカイワリはデートスポットのようでペアが多く、オスはめっちゃ婚姻色になってます。他には、イスズミの群れとサバヒーの群れ。サバヒーは国魚で、大きさは80センチ前後。30、40匹で群れているのですが、遠くから見るとサメに見えます……。 水面を見上げながら、群れを楽しむ。最後は棚上の極上サンゴを眺め、パープルビューティーの群れに囲まれます！ やはり禁漁区のサンクチュアリなので、サンゴがとても自慢のポイントです！

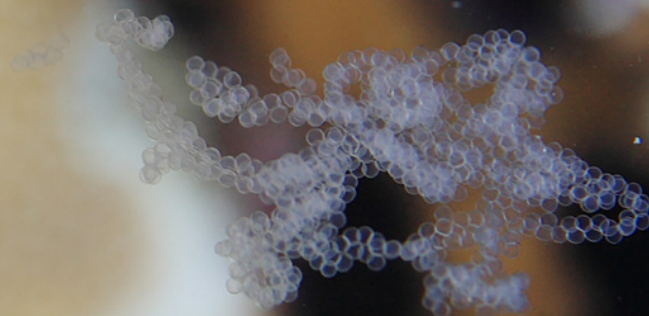
PHILIPPINES
MOALBOAL
フィリピン・モアルボアル





「あい」なのに「ゆき」と呼ばれたい・名雪愛編 ＜タリサイのサンセットダイブ＞

「愛」と呼ばれると身体がぞわぞわするので、ゆきと呼んでほしい。と言いつつも、彼女が選んだのはタリサイのサンセットダイブ。目的は、ニシキテグリの放精抱卵。「愛だけにラブラブだから好き!」と周りのスタッフに突っ込まれていた……（笑）。タリサイは、ショップからボートで南に8分ほど。シーズン、日の入り、天気の様子によって、エントリー時間は多少変わりますが、およそ5時15分くらいにエントリーします。ブイ下、5、6mにあるハマエダユビサンゴに集合し、観察を始めます。最初に一回り大きなオスを見つけ、赤いフィルターを付けたライトで照らしながら、オスがメスを探す様子を確認する。オスがメスをうまくエスコートし始め、2匹はサンゴから約20cmほど浮上し、放精抱卵します。うまくいくと、その時に卵も見えます。オスは新しいメスを探して、メスがいる限り1晩で約5、6回も繰り返す。すごいですね（笑）？ その繁殖行動は、ほぼ毎日見られます。なので、最小催行人数は1名、リクエストベースで毎日でも可能です。普段はあまり見れない魚の生態シーンを、是非見て欲しいですね。ナイトダイブが苦手な方でも、明るいうちからエントリーするので、気軽に行えます。最後はエビカニ、夜光虫などを楽しんでダイビングを終えます！



みんな編 <カバナフロント>

モアルボアルの代名詞となった「イワシの大群」。本当はミズンという魚種で、イワシでないことが判明したのだけど、外国人も「サーディン」と呼んでいるので、もうあだ名のようなもので、「イワシ」でも良いのかも知れない……（笑）。ポイントは、ボートでお店から南に約30秒。カバナというリゾートの前の桟橋の下に、何億ものイワシが群れている。ガイドのユヌスは、「イワシの群れに、ニジョウサバやツムブリがアタックするのが面白い。イワシがパニックになって、海全体が動く感じがすごい!」。風香ちゃんが、「あのポイントはまるで別世界です。他のポイントもちろんそうなんですが、カバナフロントはある意味別格です。陸上では、想像もつかない雲のようなイワシは圧巻です。また、イワシが捕食されているシーンを見ると、頑張ってる、という感じがします。」ユキちゃんは、「イワシはもちろんですが、他にも、柵側でオドリハゼ、チョウチョウコショウダイの幼魚、アカククリの幼魚、などが勢ぞろいしています。イワシだけでなく、写真映えるお魚によく出会えます!」とそれぞれの感想を聞かせてくれた。



その他のお薦めポイント！ ＜トグレサングチュアリ＞

今回どこか新しい場所に連れて行くと、一番最初に伝えたところ選ばれたのが、このトグレサングチュアリ。ドロップオフはとても豊かなサンゴ礁に覆われている。種類も豊富で、特にキャベツコーラルと呼ばれる種は、造形的にも印象的で、角度によっては、海の森のようにも見え、このモアルボアルの海の豊かさを象徴しているよう。そこに大きなウミガメが登場する。ダイバーとの関係がうまくいっているのだと思う。猛スピードで逃げることはなく、「なんだダイバーさん、いたんですか？」といった感じで、リーフからテイクオフする。そして、「向こうに行くのかな？」と思いきや、こっちに逆戻りしたりするので、なかなか可愛い。マクロの生き物もスプリングーズダムセルの群れなどがサンゴの上で見られた。

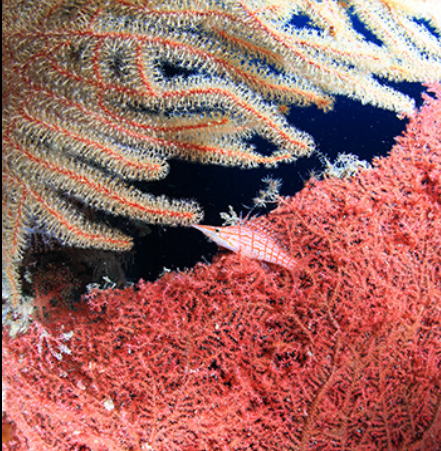


PHILIPPINES
MOALBOAL
フィリピン・モアルボアル

まだまだあるよ! お薦めポイント!

<エアポート>

北側にあるポイントで、海中には人工的に置かれたセスナが、水深20mに鎮座している。不思議と周囲は静かな雰囲気、ヤギなどが生え、イソギンチャクに住むクマノミなども見られる。どこか長閑な雰囲気。セスナ自体が漁礁になっていて、中にはユカタハタやタテジマキンチャクダイなどが見られた。セスナの少し沖合のドロップオフにもヤギやウチワなどが生え、カラフルな装い。ウチワの上ではクダゴンベの姿も見られた。そして、ガイドのユヌスに連れて行かれたのが、クジャクベラのフラッシング畑。数も多くいるので、簡単に観察、撮影が出来た。その後、水深を上げて行きながら黒いハナヒゲウツボやカマス、豊かなサンゴ礁を見ながらエキジットした。

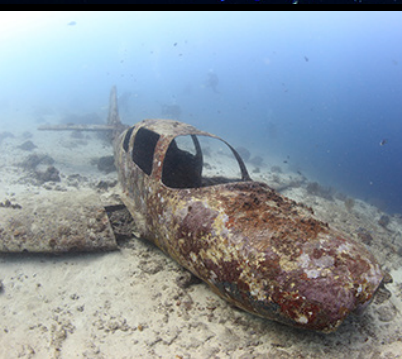


PHILIPPINES MOALBOAL

フィリピン・モアルボアル

<ドルフィンハウス>

ショップから北にあるポイントで、名前にはドルフィンとあるが、イルカはいない。以前、このビーチの前に住んでいた人が、この海中をこよなく愛し、保護していく!という決意のもと、この名前が付けられたとのこと。確かに海中は美しく、ドロップオフの壁沿いは、ソフトコーラルやウミウチワが連立。ピグミーシーホースもガイドのユヌスが見つけてくれた。浅瀬に行くと、テーブルサンゴの上に舞うデバスメダイの幼魚などが可憐で、心癒される。少し深い深度の原色の世界と浅瀬の癒しの世界を一度に味わえるポイント。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





PHILIPPINES Moalboal

フィリピン・モアルボアル



Pizzeria Michelangelo



チキチダイバーズ・オーナーガイド 渡部勝行さんセレクト モアルボアルでお薦めのレストラン！

ダイビングを終え、ログ付けをした後は、みんなでご飯に繰り出す事も多い。チキチダイバーズは、夜、スタッフがアテンドサービスをしてくれるので、レストランを迷う心配はない。今回は新しく2店舗を紹介。

「ピッツェリア ミケランジェロ」はモアルボアルのタウンにある。本店はセブ市内にあり、そのランチが最近オープン。ダイビングショップからトライシクルで約15分。茹で方などにこだわりがあり、本格的なパスタが楽しめる。お薦めは、黒トリュフパスタとマリナーラロツツ（シーフード）。また、薄生地のパリッとしたピザも美味しい。隣のローカル屋台からレチョンマノック（チキンの丸焼き）も持ち込み可能。

2軒目は、「マヤズ・ガーデンレストラン」。街の南端に位置し、ダイビングショップから徒歩約10分。メキシカンフードのお店で、野菜を多めに摂れる手作りフリオやメキシカンオムレツが人気。見た目も豪華でボリュームがあるタコプレート、チリ、野菜が入ったメキシカンライス、そしてラザニアもオススメ。

そして、これまでに過去のSORAでも紹介してきた3店舗。シーフード料理がおすすめで、ラブラブ（お魚の蒸し焼き）とイカスミパスタが人気のフィリピン料理店「リトルコーナー」。タイカレー、グリーンカレー、フィリピン料理のフィッシュキニラウが美味しい、多国籍料理店「ランタウ」。生地から作成した石窯ピザが楽しめるイタリアンレストランの「ラストフlying ステーション」などがある。



Mayas Native Garden Restaurant



チキチキダイバーズ & プルメリアロッジ

<チキチキダイバーズ>

モアルボアルで14年目を迎えるチキチキダイバーズ。渡部勝行さん、讃井梨沙さん、ユヌス、名雪愛(ゆき)さん、木村風香(ふうか)さんによるアットホームな雰囲気ダイビングセンター。目の前が海というロケーションで、ファンダイブからライセンス取得コースまで幅広くサポート。ボートを4隻所有しているのも、ゲストのポイントリクエストにも応えられるようにしている。その日の夕方、ログ付けは、担当ガイドが黒板にその日に見た生き物を、イラストを描いて紹介してくれるので、その時間は、みんなでワイワイ! 夕食は、リクエストに応じて、美味しいレストランにスタッフがアテンドサービスしてくれる。



<プルメリアロッジ>

チキチキダイバーズが経営する宿泊施設。ダイビングショップ内に併設されている。海沿いのダイバーズロッジで、計5部屋、すべてツインベッドルーム。スタンダードクラスはセミダブル×2。スーペリアは、1部屋でキングサイズ + セミダブルで、中庭を挟んで海が見えるデラックスは、1部屋でキングサイズ + セミダブル。ベランダから海が一望できる。ダイビング後、すぐにお部屋に入れ、シャワーも浴びられるのが嬉しい。朝食付きで、おかゆなど手作りのフィリピン料理など。断水や停電があっても、大きな貯水槽もあるので、お水の心配がないのも嬉しい。